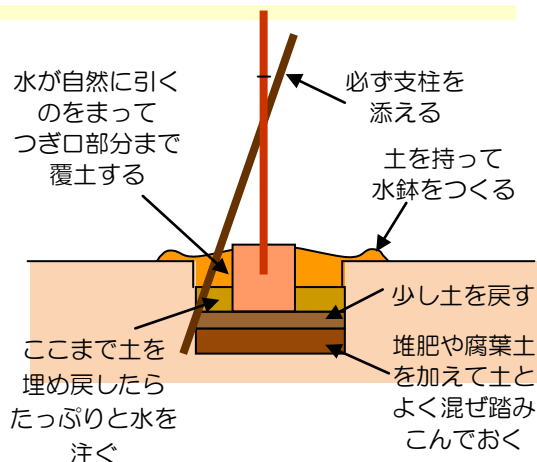


Q 苗木の植栽時に注意することはありますか??

- 根鉢よりなるべく大きな穴を掘ります。
- 植栽の適期に植え付けます。
- 植栽後は水をたっぷりやります。
(水ぎめを行うなど)
- 根が活着するまで(1年半ほど)は水枯れに気を付けます。特に夏場は注意が必要です。
- 活着するために適切な支柱を設置します。
- 植栽後はマルチングをします。



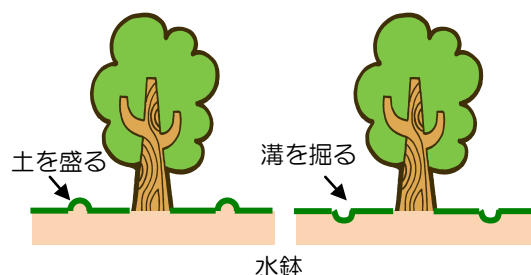
Q 支柱は使い続けてもいいのですか?

- 支柱は、永続的なものではありません。樹木の成長や支柱の老朽化に応じて、更新または撤去する必要があります。※樹木に食い込む前に撤去します。

Q

樹木への水やりの手間を減らす方法がありますか?

- 水鉢をつくったり、マルチングを施すなどにより乾燥を防ぎます。
- 乾燥に強い植物を使用すると多少水切れしても枯死までには至らずにすみます。ただし、全く水やりの必要がないというわけではないので注意しましょう。



Q 芝生化や屋上緑化では自動灌水の導入で手間を減らすことができます。

水不足かどうか分かりますか?

- 芝生や樹木が吸水不良になると、右記のようなサインが出ます。ただし、これは、排水不良の場合も起こるので、土壌の乾燥と地下部分での過湿の両方が考えられることに注意してください。

- ・先枯れ(樹木の先端や枝先だけが枯れる)してきた。
- ・新芽が出てから、極端に葉がしおれてきた。
- ・芝生の葉が巻いてきた。
- ・落葉樹で葉が丸まって落ち始めた。
- ・針葉樹で枝葉が部分的に白身を帯びてきた。

Q

屋上緑化の給水のトラブルで注意することはありますか?

- 屋上緑化では点滴パイプを利用している例も多く見られますが、パイプの目詰まりやコントロール機器等の不具合がないかチェックすることを心掛けましょう。

Q 環境にやさしい雨水利用も検討しましょう。

樹木の病虫害の発生を抑える方法がありますか?

- 剪定をすることで通風、採光の改善を行います。
- 植栽密度が過密にならないようにしましょう。
- 落ち葉、雑草、枯枝は取り除きます。
- 樹木の休眠期にイオウ合剤などの殺虫剤を散布します。
- イシクラゲ(陸地に生えるワカメのような藻)が発生した場合、その場所が湿気していると思われるため、通気性・排水性を良くします。駆除にはコケ類用除草剤が使えます。

Q 芝生を施工してから使い始めるまでの期間はどれくらいですか？

○暖地型の芝生で春に張芝施工の場合 1 ヶ月で通常使用が可能です。ポット苗施工の場合は 2 ヶ月の養生期間が必要です。

Q 芝生を長持ちさせる方法は？

○暖地型の芝生の場合、傷んだ箇所の補修を都度行うこと、萌芽時期に損傷の激しい箇所の使用を控えることが大切です。運動会など芝生を激しく使って擦り切れた箇所には施肥、目砂施用後、散水します。

Q 芝生化した校園庭やひろばに利用制限などのルールづくりは必要ですか？

○運動会後のオーバーシード等による養生や入学式に向けての芝生の育成など、学校行事とあわせた管理方法を考えることが大切です。

○あらかじめ使用頻度が高く、損傷の激しい場所は基盤施工時に、基盤の厚さを増し(15~20cm) 砂質~砂壤土を使います。

○「使用する場所を日によって変える」、「野球のホームベースやサッカーのゴールの位置を変える」「午前中のみ使用にして芝生を休ませる」などの工夫も検討しましょう。

○夏休みや冬休み、春休みをうまく利用するなど、利用スケジュールにあわせた効率的な管理を行うことで管理手間を軽減できます。

Q 芝生化したところに水たまりができるのですがどうしたらよいですか？

○目土により土が盛り上がり、表面に凹凸があると水たまりができます。表面の凹凸は目土を入れるなどで均しましょう。また、表面排水の方向性や勾配のつけかたに配慮しましょう。

○部分的に排水不良がある場合は、その部分の芝生をはずして土を入れ替える、暗きよ排水を施工するなど、基盤の見直しを行うとよいでしょう。

Q 芝生が全体的に衰退したときは？

○芝生が全体的に衰退あるいは枯損するなど芝生の状態が悪くなった場合は、不良原因(保水不足、排水不足、肥料不足等)を取り除くため、土壌改良を行った方がよいでしょう。(路盤の排水経路を確保する、保水性を高めた土壌を利用する、など)

○土壌の厚みを確保するなど良い基盤へと更新することで芝生の生育が改善されます。(芝生の土壌は 15cm 以上、30cm 程度確保することが望ましいです。最低でも 10cm 以上確保しましょう。)

○駐車場の芝生が全体的に衰退あるいは枯損するなど芝生の状態が悪くなった場合は、日照不足や駐車頻度が高いなどの原因も考えられます。日陰に強い芝生(セントオーガスチンなど)を使用する、駐車制限を行うなどの対応をしましょう。

Q 駐車場緑化で芝生以外の植栽材料はありますか？

○タマリユウは常緑多年草であり、耐寒性、耐陰性が強いので目的に応じて使用を検討できます。ただし、踏圧にはあまり強くないので、補強材の天端より低く植えるなどの工夫が必要です。



タマリユウを使った事例